

# 平成30年度 学校評価実施報告書

京都市立楊梅幼稚園

## 教育目標

健康で、心豊かに、自分で考え、いきいきと遊ぶ子どもの育成

## 年度末の最終評価

自己評価	教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策

## 学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	10月22日（月）	学校運営協議会（理事、顧問）
最終評価		

### （1）幼児が主体的に遊ぶ姿を重視する

#### 保育の改善・充実

##### 具体的な取組

・一人一人の志向性に基づいた遊びが主体的に展開できるよう教育環境を整えたり、遊びと一緒に創ったりして保育を推進する。

\*週案や記録をもとにしたカリキュラムマネジメント。

・認めたり、励ましたりしながら安定を図り、自分なりのめあてをもって自己発揮し、夢中になって遊びに取り組めるような保育を展開する。

\*エピソードや事例の検討。

##### （取組結果を検証する）各種指標

\*週案や保育実践からの保育の評価・反省

\*エピソードや事例における幼児理解

\*アンケート項目「子どもは自分で遊びを選び、楽しんでいますか」

## 中間評価

	<p>各種指標結果</p> <p>週案、保育の評価反省及び幼児理解については日常的に円滑に進んでいる。また、アンケート項目については保護者も教職員も高く評価をしている。</p>
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <p>*週案を充実させることで保育実践につながり、保育の評価や反省、次週の保育構築へと循環が行われている。*エピソードや園内研究の事例などから教員が検討し、多面的に幼児理解することにつながっている。*保護者や教員の評価から「自分で遊びを選び楽しんでいる」姿の評価は高く、主体的な遊ぶ様子から安心して幼稚園生活を送っていることが伺える。</p>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>今ある環境を活かし、子どもたちが進んで遊び出せるよう、引き続き環境構成の工夫をしていく。「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」をもとに、保育や子どもの姿に注視し、幼児理解を深めながら接続期のカリキュラムを参考に週案や保育実践を行う。</p>
	<p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <p>*年間指導計画や接続期のカリキュラムを踏まえた週案の作成、反省評価 *アンケート項目「子どもは遊びに取り組み、進める中で満足感を味わっているか」</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>主体的に遊び、学ぶということは幼児期を経てからの小学校や中学校など教育でもとても大切なことである。子どもの個性もあるとは思われるが、無気力やシャイということでは自らの殻を破っていけない。教師の援助や環境により、自分の思いを出すきっかけづくりをすることが大切になる。そういったことを踏まえて保育を展開してほしい。また、保護者や地域の人に保育の様子が分かるようにホームページでの発信にも努めてほしい。</p>

## 最終評価

	<p>中間評価時に設定した各種指標結果</p>
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p>
	<p>重点目標の達成状況、次年度の課題</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p>

### (2) 小学校段階への学びにつなぐ「学びに向かう力」を育む 幼小接続の視点

	<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・興味のある遊びに夢中になることや興味や関心を広げることなどを経て、自分なりに課題に向かって挑戦したり、友達と共にめあてをもって遊びを進めたりする保育を展開する。</li><li>＊楊梅幼稚園の保育の充実、向上に向けての週案、記録、保育実践の研修。</li></ul>
--	--

\*近隣小・中学校への公開保育（ミシルウィーク）。自らの幼稚園教育の発信と共に合同研修の開催。

・下京雅小学校の「ジャンプアップ」の取組について研修し、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿「健康な心と体」との接点を見つめ、各時期の保育のねらいを達成できる教材を取り入れたり、環境の工夫をしたりする。

\*合同研修年間計画作成。園内研究協議や下京雅小学校との管理職会議、連携推進会議の開催。

(取組結果を検証する) 各種指標

\*週案と保育実践の検証

\*アンケート項目「体を動かして遊ぶことを楽しんでいますか」「様々な遊びに挑戦しようとしていますか」

### 中間評価

各種指標結果

アンケート結果は保護者と教職員全員が高い評価をしている。

近隣小・中学校への公開保育（ミシルウィーク）、下京雅小学校との合同研修会が実施できた。

自己評価

分析（成果と課題）

より子どもが体を動かして遊びたくなるような環境づくりや多様な体の動きを引き出し、経験できるような保育計画を立てたことが子どもの成長につながっている。  
幼稚園教育を小学校へ発信することができた。

分析を踏まえた取組の改善

体を動かす遊びの保育の計画や実施を継続する。

研究発表会での小学校や就学前施設への発信をするとともに、あらゆる機会を見つけて幼稚園と小学校の連携を深める。

(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標

\*公開保育や研究発表会の実施

\*アンケート項目「子どもは体を動かして遊ぶことを楽しんでいる」「子どもは自分で遊びを選び、挑戦したり、試したりして遊ぶことを楽しんでいるか」

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策  
小学校では体力テストと外遊びの充実との関係から遊びを通して体力を身につけているということがわかりつつある。家庭生活の中で戸外で体を動かして遊ぶことができる公園が地域に少ないことなどから幼稚園での遊びの充実が望まれる。

幼稚園以降の教育も見通すと、自己肯定感をもち、様々な可能性に目が向けられるような成長を願う。また、自分の思いを素直に表現することはその後の学びにつながると思われる。

### 最終評価

中間評価時に設定した各種指標結果

自己評価

分析（成果と課題）

分析を踏まえた取組の改善

重点目標の達成状況、次年度の課題

## 学校関係者による意見・支援策

## (3) 自ら体を動かす意欲を育て、基本的な生活習慣を形成し、自信と自立心を育む心と体・生活習慣

## 具体的な取組

・自ら体を動かしたくなる環境を工夫し、自分なりのめあてに向かって挑戦できるよう援助する保育を構築する。

\*主体的に体を動かして遊ぶ環境の工夫。一人一人のめあてを明確に伝え認め、励ます保育の推進。

・自分でできることを喜び、自立や自信につなげられるよう一人一人の生活習慣や実態を捉え、家庭と連携しながら生活習慣の確立に向け、援助する。

\*基本的生活習慣の確立に向けた保護者との連携。

## (取組結果を検証する) 各種指標

\*アンケート項目

「体を動かして遊ぶことを楽しんでいますか」

「自分でできることを喜んだり、身の回りのことを自分からしようとしたりしていますか」

## 中間評価

## 各種指標結果

身辺自立については評価が分かれた。4歳児は評価が高く、5歳児や教職員は評価が低かった。

## 分析(成果と課題)

4歳児は初めての幼稚園生活でできるようになったことを家庭でも実感されている。5歳児や教職員は子どもへの期待も大きく、依存しないで自分自身で考え行動できることを願っている。

## 分析を踏まえた取組の改善

基本的生活習慣を身につけられるように日々の保育や生活面で家庭との連携を深める。

## (最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標

\*アンケート項目「自分のことは自分でしようという思いをもったり、自分で考えたりして行動しようとしているか」

## 学校関係者による意見・支援策

挨拶をすることができるようになると小学校でも取り組んでいる。地域で会うと挨拶を進んでする様子が見られる。何時でもどこでも誰に対しても挨拶ができるようになってほしいと願っている。保護者の中には挨拶をしないで済ませている様子も見受けられる。家庭と連携しながら生活习惯を身に付けてもらいたい。

## 最終評価

## 中間評価時に設定した各種指標結果

自己評価	分析（成果と課題）
	分析を踏まえた取組の改善
	重点目標の達成状況、次年度の課題
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策

#### （4）自己発揮と自己抑制の調和のとれた自律性（折り合う心）を育む保育を推進する

##### 信頼関係・折り合い・自己肯定感・公共心の芽生え

具体的な取組
・教師との信頼関係を構築し、心の安定を図りながら、自己発揮ができる保育を実践する。
・友達やさまざまな人の思いに気づき、尊重しながら一緒に遊ぶことを通して、葛藤体験の機会をとらえ、折り合う経験を重ねる保育を進める。
*様々な人との関わりや葛藤体験ができる保育計画、推進。
・自信や自己肯定感につながるよう一人一人が自己発揮をする姿を認める。
*満足感、達成感が味わえる保育の構築。
・公共心が芽生えるよう、人の役にたつ経験を重ねたり、公共の場での環境の仕組みや自分たちの振る舞いを意識できるように関わったりする。
*地域や公共の場での活動や園外保育。
(取組結果を検証する) 各種指標
アンケート項目 「幼稚園で自分の思いを出して遊んでいますか」 「いろいろな人とかかわることを楽しんでいますか」

#### 中間評価

各種指標結果
他の評価項目に比べると保護者は低い評価を出している。教職員は高い評価をしている。
分析（成果と課題） 保護者には集団での様子がわかりにくく、個人差もあることで低い評価になっていたと思われる。人とのかかわりの面での成長は日々の小さな変化や様子からうかがえるので、教職員の評価が高くなっている。
分析を踏まえた取組の改善 2学期以降にはフランス学園や小学校との交流や地域のイベントに参加することもあり、様々な人とのかかわりができる機会がある。そういう場面の保育の構築、工夫をしていく。
(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標 *アンケート項目

	<p>「子どもは幼稚園で自分の思いを出して友達とかかわることを楽しんでいるか」</p> <p>「いろいろな人とと一緒にとかかわることを楽しんでいるか」</p>
学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>地域と幼稚園とで出合う場面や同じ敷地で出合う場合などさまざまに調整し、話し合い、連絡し合っている。今後も引き続き、連携し、子どもたちの成長を見ていきたい。</p>

#### 最終評価

	<p>中間評価時に設定した各種指標結果</p>
自己 評 価	<p>分析（成果と課題）</p>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p>
	<p>重点目標の達成状況、次年度の課題</p>
学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p>